

令和7年度 第1回 松戸市子ども・子育て会議 議事録

1. 日時	令和7年 7月25日(金) 18:30~20:10
2. 場所	市役所新館7階大会議室及び Zoom によるオンライン開催
3. 出席者	<p><委員> (50音順) 13名 池田委員、石田委員、市之瀬委員、荻野委員、奥村委員、坂委員、坂野委員、竹内委員、寺田委員、久居委員、百田委員、松本委員、渡部委員</p> <p><松戸市> 子ども部長、子ども政策課長、子ども政策課専門監、発達支援担当室長、子ども未来応援課長補佐、子ども居場所課長、こども家庭センター所長、母子保健担当室長、幼児教育課長、保育課長、保育運営担当室長、指導監、事務局(子ども政策課)ほか</p>
4. 傍聴者	1名
5. 次第	<p>議題</p> <p>(1) 第3期松戸市子ども総合計画の進捗管理について 報告</p> <p>(1) 子ども発達相談窓口「みらいのとびら」について (2) こども誰でも通園制度について (3) 多胎児支援の拡充について (4) こども家庭センターの支援拡充について (5) 妊娠期から子育て期にかけて切れ目のない支援の充実について (6) 元山駅ビルこども館について</p>
6. 資料	<p>[資料1-1] 第3期松戸市子ども総合計画の進捗管理について [資料1-2] 重点事業進捗管理表(案) [資料1-3] 子ども・子育て支援事業計画 進捗管理表(案) [資料2] みらいのとびら案内 [資料3] こども誰でも通園制度 [資料4] 多胎児世帯への支援の充実 [資料5] こども家庭センターの支援拡充 [資料6] 妊娠期から子育て期にかけて切れ目のない支援の充実 [資料7] 元山駅ビルこども館案内</p>

1 開会及び会議の成立について

(事務局)

委員の半数以上が出席(17名中13名出席)。

「松戸市子ども・子育て会議条例」第6条第2項の規定により、会議の成立を報告。

2 子ども部長挨拶

3 傍聴者の受入れ及び議事録の作成・公開について

(事務局)

「松戸市情報公開条例第32条」の規定により、公開を原則として会議を開催し、傍聴者の受入れを許可したい。本日の傍聴の申し出は8名。

また、当会議については議事録を作成の上、公開したい。議事録作成のため、Zoomによる録音・録画についても許可願いたい。

(坂野会長)

特段異議等ないので、公開を了承する。

4 議題

(1) 第3期松戸市子ども総合計画の進捗管理について

資料1-1、資料1-2、資料1-3を用いて、担当課より説明を行った。

(坂委員)

第3期松戸市子ども総合計画はEBPMを活用しデータを作ったようだが、203頁に0歳から5歳まで人口が減少していくのが説明されている。204頁は1号認定の3~5歳まで右肩下がりである。ところが206頁では1号認定2号認定は上がっていく。③利用率は最終的には76.9%まで上がっている。そのあたりの説明をいただきたい。

(幼児教育課)

共働き世帯が増えている関係で1号認定は急速に減少している。子どもの人数はトータルでは減っているが、共働き世帯が増えているためこのような数値となった。

(坂委員)

19頁の母親の就労が令和になり増加しており2号認定と1号認定に差がでてきたと理解した。

5 報告

(1) 子ども発達相談窓口「みらいのとびら」について

資料2を用いて、担当課より説明を行った。

(2) こども誰でも通園制度について

資料3を用いて、担当課より説明を行った。

(3) 多胎児支援の拡充について

資料4を用いて、各担当課より説明を行った。

(4) こども家庭センターの支援拡充について

資料5を用いて、担当課より説明を行った。

(5) 妊娠期から子育て期にかけて切れ目のない支援の充実について

資料6を用いて、担当課より説明を行った。

(6) 元山駅ビルこども館について

資料7を用いて、担当課より説明を行った。

(坂委員)

資料4の多胎児だが、一般的には三つ子以上との考えがあるようだが松戸市の定義をお伺いしたい。

(こども未来応援課)

双子以上からである。

(石田委員)

多胎児支援はほっとする一むでの評判もとてもいいのだが、タクシー利用券の利用範囲は乳幼児健診、予防接種、交流会で使用できるが、おやこ DE 広場では使用できないという認識でよろしいか。

(母子保健担当室)

遊びの広場に行くための利用は範疇にはっていない。あくまでも多胎児の家庭同士が交流を図る場に参加するという目的のために利用の体制を整えている。

(石田委員)

利用上限が30回であるので、もし可能であれば病院などちょっとしたことに使用できるように検討して頂きたい。多胎児だと移動がとても大変なようだ。

(坂野会長)

検討のほどよろしくお伺いしたい。

(荻野委員)

こども誰でも通園制度には重心児や医療的ケア児も含まれていて、選択肢がたくさんあるため各々の家庭にあった支援が受けられるのはありがたいと思っている。ヘルパーや保育士も市の助成で喀痰吸引の資格を取ることができる。呼吸器や酸素などの機器を持った子どもたちが単独で放課後等デイサービスを利用できるようになってきた。松戸市には医療センターやおおぞら診療所があるおかげで医療的ケアがあっても安心して生活ができる。

しかし、高校を卒業すると肢体不自由児は生活介護に行くことになるのだが、人員配置がこれまでと異なるため居場所を失う子ども達がでてくるのではないか。病気や加齢による体調の変化や医療ケアの追加により生活介護等に通えなくなることにより、これまでの生活が脅かされないようにしていただきたい。

(発達支援担当室)

18歳の壁と呼ばれる障害児から障害者になる転換期に様々な課題が顕在化する問題はある。まだ国の制度もしっかりと構築されていない部分もあるが、必要な支援のニーズ調査をしっかりに行いながら子ども部と福祉長寿部で連携をとっていくつもりである。

(寺田委員)

第3期松戸市子ども総合計画を読むと様々な面で子ども達のことを考えているのが伝わってくる。この地で子どもを生き育てたいという気持ちになるように、年齢で区切らずに子どもを継続的に支えていけたら素晴らしいことではないかと拝聴していた。

これは願いであるが、こども誰でも通園制度の話の際に、周知についてふれられていたが、松戸市民だけではなく市外の方々に対しても周知していくことが大切ではないか。既に子育てしている方々だけでなく、これから生んでみたいと考えている層にも何か必要ではないかと個人的に思う。

また、5歳児健診について、こども家庭庁が2028年までに全国で100%を目指しているのだが、実際には難しい問題がたくさんあるのではと考えている。発達について指摘をするだけでなく、どこに向かうべきかゴールを定める必要があるのではないか。継続してその先のことを考えていけたらいいのではないか。

(坂委員)

寺田委員の意見は非常に俯瞰的である。周知について市外へもという意見はと非常に参考になるのでは。

(保育課)

様々な効果と方法を考えながら周知徹底して参りたい。

(母子保健担当室)

5歳児健診だがその後のフォローはとても大切だと認識している。引き続き一緒に協議

を重ねていきたいのでよろしくお願ひしたい。

(池田委員)

寺田委員の話の追加になるが、私自身松戸で育ち、また出産もした。松戸は子育てしやすいそうなまちという印象はある。

市外に周知していくということで提案がある。ユニセフでやっている「やさしいまちづくり」という指標がある。関東では行っているところはあるが千葉県では参加しているところがない。松戸市のまちづくり会議に出席した際に千葉大園芸学部の木下教授が松戸市は代表的なまちになると思うので是非やってほしいとおっしゃっていた。

(寺田委員)

池田委員の話聞き、幼稚園の園長として我々の教え子のような方が松戸でまた家庭を持ち素敵なまちにしようと提案されていて嬉しく思う。

(子ども政策課)

池田委員の話をもっと嬉しく思う。政策課ではプロモーションを担当しているが、これまでは外に向けていたのを今年度は市内の方々に力を入れていきたいと思っている。池田委員のような方が増えることを願う。

(百田委員)

子ども発達相談窓口「みらいのとびら」について、相談方法で子どもが直接相談できることに非常に期待を感じている。チラシをみると子どもの成長や発達に疑問や不安を感じたら、となっているので今後は子どもにも普及するような案内をしてくれたらと思う。

相談はハードルが高く、相談をしてもらえるようになれば子どもも保護者も何らかの動きができると思うのだがなかなか相談まで結びつかない。声をかけても「大丈夫。」という返事がくる。特に小学生はそのような感じであるため、窓口がたくさんあるというのはいいと思う。

こども家庭センターがやっているオンラインも期待する。小中学生くらいはインターネットやスマホなどから相談ができるようになると、相談に対するハードルがグッと下がっていいのでは。日々子どもの困りごとに寄り添いたいと努力しているが、なかなか聴きとれないジレンマがあるのでこの事業には大きく期待している

(発達支援担当室)

ご意見の通りである。我々は当初主な相談者の層を、概ね2~3歳くらいの発達の特性が出始める時期の家庭が多いと想定していた。基本的には保護者を通じての相談が主と見立てていたが、実際は5~7月の実績を踏まえても50%以上が小学生の子を持つ家庭であった。4割弱くらいが未就学の子であり、高校生からの相談と、高校生相当年齢の子の相談も2件あった。その2件のうちの1件は本人からの相談であり、ChatGPTを使ってこの相談窓口を知ったとのこと。若い世代の相談方法が我々の感覚とは違うと痛感してい

る。

今後のチラシの案内方法やオンライン相談については喫緊の課題であると感じているので、その辺りはブラッシュアップし日々進化させていきたいと考えている。

(坂委員)

元山駅ビルのこども館のことは全校生徒・小学生にはチラシで周知していると思うが、この他にも6カ所こども館があるとのことで、六実地区はこどもの居場所が少なかったのが元山ができてよかった。資料7にはないが東松戸にあるひがまつテラスもでき本当ありがたい。ただ、矢切方面にないのは残念である。例えば6号方面に満遍なくつくるとはいかないだろうが、場所によってはまだないところもある。駅ビルの中に居場所をつくるのはかなり斬新だと思うが、今後の方向性について教えていただきたい。

(子ども居場所課)

坂委員の言う通りである。基本的に地域偏在がないように考えてはいるがなかなか難しい。それを解消していく方向で考えていきたい。

(坂委員)

このような子どもの居場所が増えて、気軽に行けるようになればと思っている。

5 その他

(坂野副会長)

5番のその他に入らせていただきたい。一つ目は全体を通して意見を、二つ目は任期中最後の会議になるので委員の皆様全員に一言ずつ会議を通しての感想や意見などをいただきたい。まずは石田委員からお願いしたい。

(石田委員)

私は松戸市中心で活動しているが、全国をまわることもあり最近では流山市と関わるが増えてきているが、子育てに関して松戸市はすごいと思う。計画もそうだがいろいろと網羅されており子育てに対して優しさがある。池田委員のように松戸で育ちまた子どもを生んでという循環ができるといい。我々としては少しでも子育て家庭が気持ちよく育児をして自分らしく生きられることにできるだけ応援したいし、それをうまく施策にしっかりと落とし込めれば嬉しい。

最近子どもの人権が注目されているが松戸市はどうかと気になるが、こども真ん中社会というのをしっかりと置きながら子育て世代を応援できればいいと思う。

(荻野委員)

この会議に出ると気持ちが前向きになれていつも気分よく帰れる。現場の人たちも同じ気持ちで前向きになって子どもたちの心や気持ちを大切にしていきたい。直接保

護者と話す機会も多いのだが、会議の場で言いにくい内容もある。支援する人達も苦しくないよう声掛けなどを大切にしながら子どもたちを見守っていきたい。

(坂委員)

子ども会としては小学生が中心となり活動しているわけだが先程の施設や施策がだんだん充実しているのを感じ、ありがたい。

また、子ども総合計画だが今までになり斬新なイラストなどが入り統計もいろいろ出ているので読んでいて勉強になる。こういったエビデンスをもとに今後施策をつくり活用してもらい、今後もいろいろと教えていただきたい。

(市之瀬委員)

この会議に出席し、松戸市が子どものためにいろいろと考えていることがわかり勉強になった。

我々は子どもや保護者と直接関わるのだが、相談時間が4時や4時半となってしまう。父母が仕事から帰ってきて子どもと対峙するのはよいこのチャイム後で、夕飯の時間が一番子どもと関わる時間であり、その時に子どもの育てにくさや心配事がすごく心に大きくなってくると考えている。

我々教員はどうしても子どもと対峙する時間しか仕事ができないが、市の職員だったらシフト制などでもう少し長く、夜の時間も相談に乗れたり朝の時間や学校が閉まっているときに相談している場所があれば、子どもたちや保護者を救えたりしないかと考えていた。この1年でそのことが大きくなり、少年センターの会議でも、24時間とはいわないが子どもが寝た後に保護者がいつでも相談できる場所がないかと意見した。あれば子どもの虐待や自死など減ってくるのではないかと考えている。行政で検討していただければありがたい。

(渡部委員)

晴香園では親子分離という形で入所してきている子どもたちが生活しているが、今はだいが変わってきていて親子分離させないことに注力されている。松戸はそういったメニューが充実しているようだ。特に産後ケア、妊産婦の要件の緩和というところで、母親が疲れると子どもにいい影響がないと実感しているので、いい政策が増えていると感じている。

(百田委員)

この会に参加して、自分が努力したり勉強するだけではとても追いつかない様々な視点から施策が展開されていると知った。支援に終わりはないと確認する時間となった。全部で14法人あるが、資料の一部は共有してきたが、今の私の一番の悩みとしてこのことの共有をどうするか悩むが、やはり支援する人が知ることが大事ではある。

あと、私の考えてとしてだが、子どもは失敗することにより支えられたり助けられたり

励まされたりすることで回復し、自己肯定感につながると思っているが、仕事をしているとあまり失敗はさせられないし、安全管理教育をしなければならない立場であり、失敗するチャンスを学ぶ機会は今どこにあるのか。大人が動くほどそれを奪い閉ざしてしまい失敗を見つけた途端解決してし、二度とないようにしてしまうというジレンマがずっとある。まとまらないが、皆と一緒に時間に考えさせてもらうことが明日の活力になる。

(久居委員)

なかなか参加することができなく申し訳ない。保育園協議会としては日々保育課と協議する機会があったが、今民間の施設がどういう取り組みでどのくらいの規模でという具体的に聞く機会がなかったのでこれを機に各施設でも取り組みができるような形で協力でしていきたい。

松戸市の子育て環境は皆が言うように大変充実しているのだが、一方でやはり働く者が年々流出しているというのも含め、働く者を育てることの苦戦している状況でもある。これだけの政策があって働く意義をもっと感じてもらえるような施設づくりであったり、協議会としてもそういう魅力を伝えていきたい。

余談だが、ChatGPTをつかい子育て窓口を知った話が出たが、現場でも保護者が子育てに悩んだときに ChatGPT で調べ、それについてどうなのかと保育現場の職員に質問を投げかけてくるケースが出てきている。なので、その情報をどう我々が整理しながら寄り添っていくのがこれからの時代難しくなってきたと考える。情報共有させていたければと思う。

(寺田委員)

先程も申し上げたが松戸の子どもたちが幸せに育って欲しいと願っている。

それで松戸市含む我々は皆で知恵を出し合って子どもを支えていこうとしているわけなのだが、その一方で子どもに支援するだけでいいのかとあえて投げかけたい。子どもたちから大人が得るものはたくさんある。子どもとともにいる幸せを、そういう社会を作っていく考えもとても必要ではないか。

例えば松戸市で盆踊りがやれなくなった公園がある。子どもの声や盆踊りの音がうるさいからできないと聞くと、子どもの声がうるさいという意見が出るのは子どもに対しての大人の思いや価値観、子どもをどう思っているのかというようなことがそこに含まれてくるのだろう。

我々は子どもたちに何かをしてあげるという上からの支援ばかりではなく、子どもとともにいる幸せを感じる大人をつくっていけば松戸市がさらに素敵なまちになると考えている。

(坂野副会長)

人育ちのまち松戸になって欲しいということであると理解した。

次にオンライン出席の方名簿順にお願いしたい。

(池田委員)

私のような若者を公募委員のメンバーとして選んでいただけことだけでも松戸市が若い声をくみ取ろうとしていると大変感謝している。この任期中私事ではあるが結婚・妊娠・出産を経験し、松戸市が本当に子育てしやすい環境であると夫ともども実感している。

一人の親としてほっとする一む等で様々な親御さんと関わりを持ったが、政治にあまり関心がない方が多く、市政に届けるアクションを自ら起こそうとする方は少ないと感じた。今後も自分のような若い世代の声を是非くみ取っていただきたい。自分自身も今後別の形になるのだろうが、今後も是非関わっていききたい。

(坂野副会長)

池田委員のような若い方はこれから松戸を支えるので、関りをもつことはとても大事だと思っている。

(竹内委員)

本日はズームで途中参加させていただいた。

我が家には大学生の娘と中学3年生の息子がいる。ちょうど中学3年生の受験生ということで、松戸市PTA連絡協議会でも進路についての相談というか、こういう場合はどうすればいいかとか、支援級の子どもは高校の選びかたの情報がうまくつかめないという話が何件もあったので、子育て支援課のようなことがあると協議会でも伝えている。

ちょうど私が参加したタイミングで「みらいのとびら」の紹介があったが、このような形で子どもも大人も相談できると案内できるのはすごくいいと思う。私も小中学校の子ども達やその親御さんと接する機会がおおいが、実際にこの社会に出て働きながら子どもを育て、一番いいのは子ども連れで社会に出られるのがいい市だと思うので是非そこを目指していただきたい。

(松本委員)

あまり参加できなくて申し訳ない。私の立場からみて松戸市は皆が言う通り医療的ケア児のことや「みらいのとびら」など良い施策が多く、誇れるところがたくさんあると思っている。人気がある流山市には子どもの入院施設がなく、松戸の子どもは医療的に恵まれているのでそのアピールが可能ではないだろうか。また、松戸市夜間救急センターに自分も時々行くが、実は市外の受診者がどんどん増えている。これも近隣にあのようなセンターがないからだろう。

色々な施策をたくさんしているのですます頑張って頂きたい。

(奥村副会長)

この会議に参加することにより現場の声をじかに聞くことができ、私自身非常に勉強になった。普段は保育者を目指す学生の教育をしているが、どんなことに悩み頑張っているのかを、テキストだけでなく現場の声で伝えることができる。貴重な経験ができた。

(坂野会長)

会長として挨拶させて頂きたい。第3期松戸市子ども総合計画という素晴らしいものができた。毎回ブラッシュアップされている内容であるし、子ども子育て会議の委員の皆様のお熱意を毎回感じる素晴らしいものだと思う。皆のおかげで松戸というのは素晴らしい子育てのまちになっている。寺田委員が言ったように人そのものが成長できるまちになればいいという願いもあった。しかし一方で、子どもの問題は多様化かつ複雑化している。その中で実際現場から子どもの声を拾い上げ、そのような社会問題から行政の課題にまで上げていただいている点では子ども政策課をはじめ、子ども担当の関連課が尽力している。これは本当に素晴らしいことだと思う。

最後は奥村副会長から総括いただきたい。

(奥村副会長)

総括をさせていただく。本日も貴重なご報告多数いただき感謝する。3点ほどコメントしたい。まず1点目として第3期松戸市子ども総合計画における進捗管理の取組みは、目標の可視化等事業の実施状況の定量的把握が丁寧に行われており推進されているということを実感した。一方で、こどもモニターやその講座イベントといった事業において、その実施回数だけではなくて参加した子供保護者市民たちの気づきや変化といった質的な視点も含め、今後の評価や振り返りに活かせばいいのではと思った次第である。

2点目だが、こども誰でも通園制度の実施状況については対象施設の広がりが非常に心強い一方で、医療的ケア児の受け入れに関する体制整備については、各施設、種別の役割分担や支援のあり方を今後さらに整理していく必要があると感じた。

最後3点目だが、多胎児世帯支援や5歳児健診、こども家庭センターの取組みなど、それぞれに先進的で実効性のある施策が進められていると感じた。一方で、委員の方からも、発言があったが、支援を必要とするそのご家庭にどう届いているのか、どのように利用されているのかといった実態の把握や、その周知の工夫についても、継続的な検討が求められているのではないか思った。

子どもと子育て支援をめぐる課題は複雑多様化している。引き続き丁寧な取組みを積み重ね、関係機関との連携を、連携や対話を深めながら、実効性のある施策展開につなげていただきたい。

(子ども部長)

委員の皆様におかれては令和5年8月から2年間松戸市の子どもたちの未来のために多大な貢献をいただき本当に感謝する。

坂野会長、奥村副会長においては、子どもの最善の利益を第1に丁寧な助言をいただくとともに子ども子育て会議の円滑な進行に大変尽力いただき感謝する。今期で委員を退かれる方、引き続き第7期も委員としてご協力いただける方それぞれだが今後も松戸市の子ども達のために変わらぬご支援をいただければ幸いである。

7 閉会

(事務局)

本日の議題について、その他意見や要望等あれば、意見票又は任意の様式に記入の上、8月8日（金）までに、FAX、メール、郵便等にて事務局まで送付願いたい。

なお、次回の会議については11月頃の開催を予定している。